

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570700290
法人名	社会福祉法人 慈恵会 ゆいの里
事業所名	グループホーム ゆい
訪問調査日	平成 20 年 9 月 10 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 15 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2570700290
法人名	社会福祉法人 慈恵会 ゆいの里
事業所名	グループホーム ゆい
所在地	守山市立田町1418番地 (電話)077-585-5199

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2F		
訪問調査日	平成 20年9月10日	評価確定日	平成20年10月15日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 7 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	7.2 人

(2)建物概要

建物構造	一戸建・木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	46,000 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2	4	名	
要介護3	2	名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	84.6 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	守山市民病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは田畑の広がる農村の中にある民家型施設である。開設12年を経ているホームで国のモデル事業として全国で8番目に開設された。当時築30年位の平屋一戸建てを借りて少し改造しただけのユニットで、一般的な家屋と全く同じように広い庭先があり裏には野菜畑もある。外観は一般の家庭と同じ住居スタイルである。近くに経営母体の多機能施設があり職員の交流や食事提供の支援を受けるなどサービス向上への連係を図っている。職員や入居者は地元の方が多く知人の家に遊びに来た感じで常に笑顔や会話の絶えない家庭的な雰囲気でも生き活きた介護サービスを心掛けている。なお、来年1月には近くの経営母体敷地内に建設中の2ユニットのホームが完成するので全員移ることになる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題について外部評価の意義を理解し独自の理念をつくりあげ実践している。運営推進会議もさらに充実した内容で開催している。介護計画の定期的見直しや職員異動の報告および水分摂取の把握については重要な事項であり今後さらなる改善取り組みに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員は自己評価の意義を理解し職員個々が評価を行ない管理者に説明・報告してまとめている。評価できる内容は全職員が共有してサービスに活かしている。改善すべき課題については優先順位をつけた改善計画を策定しており実効に期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は民生委員、市高齢福祉課、家族、事業者、管理者の参加で今年から4ヶ月毎から3ヶ月毎開催に改善し議事録もキチッと作成している。今後は更に2ヶ月毎開催を目標に取り組むとともに、グループホームの実態報告と課題、新しい職員への認知症および介護予防に関する研修も議題に入れて、さらに内容の充実した会議になるよう期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族は地元の方が多く気軽に訪問しているので入居者の日常の暮らしぶりや健康状態を来訪時に都度報告している。今年からホームの行事や入居者の生活ぶりを家族に知らせる「ホーム便り」を毎月発行して家族との関係を密にする努力をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>永年の施設運営により地域の方々に理解をしていただくようになり、散歩の時には挨拶を交わせる方も増えて来て野菜なども頂く様になっている。サロン会や老人会、祭りなどにも参加している。「子どもSOSの家」として登録されたり地域防災マップに記載されるなど地域との連携を密にしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念には「地域に根ざし社会に貢献する」とし、基本方針に「地域社会の中で専門性を活かし・・・」と謳っている。地域密着型サービスを理解し、その役割を考えたと独自の理念をつくりあげ実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員および家族の目にとまるように玄関に掲示されている。毎月のワーカー会議で理念を読み上げて意識づけを図り日常のサービスに活かせるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月の地域のサロンや老人会、祭りに参加している。散歩時には地域住民と挨拶したり収穫物の頂き物などを通じた交流も深めている。地元から「子どもSOSの家」として登録され地域に貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価および自己評価をワーカー会議で議題として取り上げ全職員で話し合い改善に努めている。自己評価は全職員が参画して作成されており外部評価の意義も理解し日々の取り組みに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を従来の年3回から年4回開催に増やして会議の充実を図っている。内容はホームの行事や事業報告、サービス向上に向けた意見交換などを議題としており、そこでの検討内容を日々の取り組みに活かしている。		今後は更に省令に定める「2ヶ月に1回開催」に近づけることを努力目標に取り組んで欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から市高齢福祉課の担当者とは経営母体の多機能施設もあり交流もあるので行き来する機会も多い。高齢福祉課の元メンバーが包括支援センターに配属されているので面識もあり常時相談しやすい状況にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	今年からホーム行事や計画を掲載された「グループホーム ゆい 便り」を毎月発行して家族にも送付している。入居者の日常の暮らしぶりや健康状態、立替え方式の金銭報告は定期的に行っているが職員の異動は家族から聞かれた場合に口頭で報告する程度である。	○	入居者と馴染んでいる職員の異動報告は重要であり「ホーム便り」に掲載するとか日常の健康状態や暮らしぶりなどを家族に連絡する時に合わせて定期的に報告するよう期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見・不満・苦情などを記載できるように苦情箱を設置している。家族の来訪時に何でも言ってもらえるよう雰囲気づくりと聞き取りに努力している。外部の苦情・相談受付機関も重要事項説明書には表示している。		家族の意見を常に反映できるルールづくりも重要であり、家族の代表者の意見集約上からも「家族会」などを設置されることを望みたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所として職員の離職と後任の確保には苦勞していることもあり職員と日常的な話し合いによりコミュニケーションの良化を図り離職者が出ない努力をしている。異動する場合は入居者に影響の無いように引継ぎ期間を設け配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で勤続年数別の育成計画に基づいた職員研修を毎年実施している。職員研修として毎月2回の園内研修を開催している。日常的な課題などについては毎月のワーカー会議で介護サービスの向上に向けた勉強会も開催している。外部の実践リーダー研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に所属し同業者と交流している。研修会で知り合った方々と運営面における諸問題などについて意見交換や情報交換を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の家族とも事前面接を行ない情報を得たうえで適切なケアを見出すようにしている。いきなりの利用開始はせず短時間体験や一日体験を必要回数設定して入居者と家族の方が納得された上で入居を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者が得意としたり楽しいことを見つけるように努めている。掃除、料理、畑いじりなど得意な方と一緒に作業し、場合によってはノウハウを教えてもらいながら共に生活をするという気持ちを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望を把握するために日常的な会話の中から表情の変化を見逃さないように努めている。入居者の過去の暮らしぶりを家族からの聞き取りも行ないケース記録に記載して共有化を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は入居者の生活歴を把握するため本人や家族と十分に話し合いを行ない計画作成担当者が作成している。それをワーカー会議で個人別に検討を行ない、関係者の意見を反映した介護計画をに練り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の日々の変化については個別のケース記録に記載され日常的に対応している。しかし介護計画の変更、追記項目があった場合は都度の記載は出来ておらず定期的な見直し(3ヶ月毎)も出来ていない。	○	入居者が安定していてケース記録に記載が無くても全般的な見直しと確認が重要であり、介護計画の見直しを定期的(3ヶ月毎)に行なうよう望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望および状況に応じて医療機関への通院や送迎など臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族の送迎同行を基本としているが受診時も立会って診断結果は職員に報告され都度介護計画に反映している。緊急の場合の通院は家族と連携して職員が契約協力医への送迎などの支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは行っていない。重度化及び終末期のホームのあり方については入居時に家族と話し合っている。重度化の場合は法人内の他の事業(特養)と情報の共有を図ることもできる。		家族と入居時だけでなく重度化した場合に備えて適宜話し合いを繰り返し、考え方を共有化するため都度文書化するようにして欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員に個人情報保護に関する誓約書を交わし自覚を促しプライバシー確保の徹底を図っている。個人記録の取り扱いや入居者の人格を尊重した言葉掛けにも日常的に気配りしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるがタイムテーブルはつくらず風呂は5時から、食事は7時からだけを決めて、その日その時の個々の体調や環境、状況に合わせて、あくまで本人の希望やペースを尊重した支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人内から配食されるので配膳手伝いと片付けをしている。週二回は手作りの日を設けて全員で好きなメニューを考えて買い物にも行って料理して職員も一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は夕方の5時から2時間くらいに本人の希望に沿って自由に入っている。洗髪や背中洗いの介助支援もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	訪問した時にお茶を笑顔で運んで頂いた入居者がおられたが経験を活かした取り組みを実践している。野菜畑や花づくりなどの趣味を楽しむなど入居者全員が終日笑顔で過ごせるように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月お楽しみ外出の企画もあり手作り料理の日には買い物に出かけている。地元出身で近所の散歩希望者も多く雨の日でも法人内の施設に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関も裏も鍵をかけず常に入居者の動作に目配りしたり共に行動するなどの見守りを基本に対応している。各部屋も鍵を付けられない構造で普通の生活の継続を図り、地域とも密に連携をとって見守りや連絡の協力をお願いし、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署立会いにて年2回実施している。地域の防災マップにも載せてもらい地域の協力も得られるよう働きかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士によって管理されているが、水分は食事やおやつ時のお茶、お汁を摂る確認をしている。一日の水分摂取量の確認は医師の指示がある人については詳細に把握し記録に残しているが、それ以外は個人別の摂取量は把握していない。		高齢者にとって栄養摂取と共に水分補給はたいへん重要であり、個人別の水分摂取量(お茶、汁なども含む)を出来る限りおおよその量でも把握して記録することを習慣づける努力をし、健康管理に活かして欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋の改造建屋(4LDK)で一般家庭の生活環境と雰囲気をそのまま活用している。共用空間のレイアウトも居間、台所、食堂、浴室も家庭生活と同じ状態にあり前庭は広い日本庭園があり静かな環境にある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人部屋と二人部屋があり相性などを考えて決めている。部屋は襖の仕切りであり家具や調度品などを持ち込めないが今までの生活環境と変わらない雰囲気ですら暮らせるよう工夫している。		